

P R E F A C E — ま え が き

こんにちは、オーガストです。

初めての方、はじめまして。

何度目かの皆様、いつもご愛顧頂きありがとうございます。

2010年2月25日に、PSPソフト『夜明け前より瑠璃色な -PORTABLE-』を発売致しました。
お買い上げ頂いた皆様に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

内容はPS2版／「Brighter than dawning blue for PC」とほぼ同様なのですが、予想外の反響を頂き、発売直後は一部の店舗で品切れになってしまうほどでした。現在も好評発売中です。「自分専用のPCやゲーム機が無いためにプレイにくい」という方や、「ベッドでごろごろしながらプレイしたい」という方などがいらっしゃいましたら、お手に取って頂ければ幸いです。

それでは、多少のお時間を拝借致しますが、オフィシャルハンドブックをお楽しみ下さい。

2010年春 オーガスト/ARIA 拝

CONTENTS

- 3 …… [FORTUNE ARTERIAL] Short Story
 幻のリーサルウェポン
- 7 …… オーガスト最新作
 機翼のユースティア 情報
- 10 …… スタッフ対談
- 11 …… あとがき



幻のリーサル・

ウエポーン

安西秀明

「彼女の様子は、いつもと違っていた。ペランダの避難はしごを降りてくる。部屋着ではなく制服姿だ。」

「スカートがギリギリのラインでひらひらと舞う。一段ずつ降りる時間すら惜しいと思っただのか、はしごの途中で小さな手を離した。」

「スカートが風を孕んでふわりと翻る。」

「細くて健康的な両脚をクッションにして着地。」

「少し癖のついた、柔らかな髪が風に揺れていた。」

「彼女の顔が見える。」

「どんな表情よりも笑顔が似合うはずなのに。」

「今は、焦りと悲しみに満ちていた。」

「見ているだけでせつなくなってしまう。」

「かなでさんは、こんな表情をするべきじゃない。」

「いったい何があったんだろう？」

「わからない。」

「サッシを開けて、まっすぐ俺に詰め寄る。」

「俺の目をじっと見つめていた。」

「悲しい決意の灯った瞳で。」

「——もしかして、俺への別れ話だろうか。」

「不安が脳裏を過ぎる。」

「かなでさんは意を決したように、小さな桜色の唇から衝撃の言葉を発した。」

「ナマハゲの下半身になって！」

「……下半身？」

自分の頭の上に『？』が浮かぶのを実感した。

「ナマハゲって秋田のアレですか？」

「たしか『わりい子はいねえが！』と子供を脅す鬼だったような。」

「『悪い子はご在宅でしようか！』ってヤツ！」

「そんなに丁寧でしたっけ」

「とにかく下半身がいれば完璧なのっ！」

「とにかく下半身がいれば完璧なのっ！」

「かなでさんは俺の手を取り、真剣な目で俺に訴えてくる。」

「……」

「まったく意味がわからない。」

「待つ。落ち着いてください」

「でも、あの——」

「おろおろとするかなでさん。」

「余程必死なのだろう。」

「……そういえば昨日見た再放送の古いドラマに、こんなシーンがあった。」

「慌ててしまい想いを言葉に出来ないヒロイン。」

「たしか主人公は、彼女を落ち着けるためにこうしたはずだ。」

「まず肩を抱いて——」

「「こ、こーへー……？」」

「二人の距離を零にする。」

「ん……」

「唇に唇でそっと触れた。」

「バックに流れる昭和のラブソング。(脳内再生)」

「ゆっくり離れると、かなでさんは頬を染めて静かになっていった。」

「ふえ……？」

「きよんとした顔で俺を見つめている。」

「やってみたものの、すげえ恥ずかしい。」

「落ち着いて、順序立てて話して下さい」

「……はい」

「ぼーっとしたまま、素直に頷く。」

「あと、今のはドラマの見過ぎだったので忘れてく



ださい」

「……やだ。一生覚えておくもん
嬉しそうに言われてしまった。」

「で、何があったんですか？」

「あ、そうだった」

かなでさんは、自分の頬をぺちぺちと叩いた。

「あのね、最近、寮内が荒れてるの」

「そうなんですか？」

「ほんの少しなんだけど。空き缶がちゃんとゴミ箱
に捨てられてなかったりとか」

「なるほど」

「風紀シールを誰も怖がってくれなくて……」

「あー」

「そういえば、司から風紀シールの噂を聞いたな。」

「かなでさん、ミス修智館コンテストで3位とった
でしょ」

「ごめんね、彼女なのに1位とれなくて」

「いや、そうじゃなくて。つまりかなでさんは人気
があるわけですよ」

「そうなのかな？」

「そうです。で、かなでさんが寮長でいるのは、今
月までですよ」

「うん」

「記念に風紀シールを欲しがらる生徒が増えてるみた
いなんです」

「えー!?」

かなでさんは、複雑な顔をした。

「それは困るよ……罰なのに」

彼氏としては、違う意味で困るし不安なのだが、
まあそれは置いておこう。

「で、風紀シールの代案が、さっき言ってたナマハ
ゲなんですか？」

「うん。日本古来の風習でしょ。悪いことをすると
怖いモノが来る。だから悪いことをしない、つてい

うのは効果あると思うの。先人の知恵だよ」

「あと『下半身』を連呼してましたけど、要するに
俺も一緒にやるってことですか？」

「わたしだと、体が小さいから……」

かなでさんサイズのナマハゲ。

「ちびっ子ナマハゲ……」

「かなでさん16バイトっ!」

「微妙に痛いっ! 耳を16回甘噛みするのは止め
て下さいっ!」

「余計なこと言わないの」

「すみません」

「それでね、孝平が肩車してくれれば威圧感あると
思うの」

「どうしてそんなことをする必要があるのか、いま
いちわからぬい。」

「普通に寮則を強化すればいいんじゃないです
か?」

「強化って?」

「細かくルールを決めたり、罰則をきつくしたり」
かなでさんの顔が曇った。

「正式な規則はダメだよ」

「どうして?」

「面白くないもん」

いや、面白さ関係あるのか……?

「でも、ナマハゲだと面白くなりすぎというか、罰
として変ですよ」

「罰だからこそ、卒業した後にみんなが楽しかつ
たって思えるものがいんだよ」

「……ああ、そういうことか。」

数年後、みんなが卒業して学院生活を振り返った
時に、少しでも笑いながら話せるように。

だから、シールなんて作って。

だから、ナマハゲになろうとして。

この人はみんなのために色々考えて、彼女なりの
最善を選んでるんだ。

ただ、みんなのことを思ってる。

——この人には、敵わないな。

「かなでさん」

かなでさんの信念に、協力することにした。

「ナマハゲの下半身、やらせて下さい」



夜の談話室に一人の男子生徒がいる。

彼は、飲み終えた缶をゴミ箱に向かって放った。

「あ、いけね」

缶は目標を逸れ、床に転がる。

「まあ、いいか。」

寮長のシールなら欲しくらいだし。

彼がそう思った瞬間、フロアの全ての明かりが消
えた。

「て、停電か!?!」

声は闇に吸い込まれて消える。

生暖かい風が撫でたような気がした。

ナニカガ、イル。

気配に誘われるように、背後を見ってしまった。

廊下は、僅かに差し込む月明かりによって仄かに
照らされている。

その最奥から何かが——

ミン、

ミン、

——近寄ってくる。

それは、不自然に動いていた。

人影のようなもの。
いや、人にしては背も頭も大きすぎる。

うっすらと顔が見えた。

赤子を飲み込めそうなほど大きく裂けた口。

背筋を冷たいものが流れ、衣服がべとりと張り付

く。

「……じ、冗談だろ？ よせよっ！」

男子生徒は、恐怖に駆られて叫んだ。

刹那、

「悪い子はア、ご在宅でしようかアアアッ！」

男と女の声が合わさったような、無駄に丁寧な雄叫びが響いた。

化物がものすごい勢いで走り寄ってくる！

——一方その頃、ナマハゲの下半身を担当する孝平は、集中しようと思死だった。

両頬を健康的なふとももに挟まれ、頭頂部には布

(どう考えてもスカート) が載っている感覚。

どうしてこんなに柔らかいのか。

どうして女子はこんなに危険な物を履くのか。

後頭部で一体どんな事件が起こっているのか。

「ゴ、こーへー、ゴ、こーへー！」

孝平はそんな邪念を振り払うために、かなでの命令に従い全力で走り出した。

文字通りの『全力』だった。

だから、

「……ちよつ、こーへー、待つて、ストツ——！」

急停止できなかった。

「ごいん！」

非常口を示す看板に激突し——
慣性に抗えないまま——

「うあ——」

「ひあ——」

かなでと孝平は、今までの一生を振り返りながら廊下を飛んだ。

◆

——数日後。

かなでさんが、俺の部屋に来た。

「あのね、ゴミが落ちてないの」

「はあ」

「門限を破る人もいないの」

「いいことじゃないですか」

「みんながルールを守ってくれてるみたいなんだけど……」

不思議そうに小首を傾げる。

「ナマハゲ作戦は失敗したのに、なんでだろ？」

俺は、司から聞いた真相を話すことにした。

「ルールを破ると、寮長が奇抜な行動をして怪我を

するかもしれない、という噂が立ちまして」

「んー？」

かなでさんの顔が更に傾いた。

「つまり、かなでさんがみんなを愛してるように、

かなでさんはみんなに愛されてるってことですよ」

「んー」

実感がなさそうに、可愛く鼻を鳴らした。

「……ま、よくわかんないけどいつか」

「いいんですか」

「けっかオーライっ！」

人気者の寮長はびしっと親指を立てて、太陽のように眩しい笑みを浮かべた。

END



陽炎が如く揺らぐ世界で、

少女は幻想を抱き眠る。

遥か昔のこと。

世界は、神の御遣いである天使によって創造されたという。

祈りの言葉を持つ唯一の生物「人類」は、天使の力を借り、大いなる進歩を遂げた。

だが、豊かさに満ちた時の中で、人々は祈りを忘れてしまう。

最初の悲劇は、約5000年前。

人類の傲慢さに激怒した神は、天使を世界から引き上げさせた。

秩序を失った大地は、瞬く間に混沌の濁流に飲み込まれていく。

無数の都市が崩壊していく中、世界でただ一人祈りを忘れていなかった聖女が、神に許しを請ったという。

神は聖女の祈りを聞き入れた。

最後に残った都市を空に浮かせ、人類を滅亡から救う。

それが、この都市。

浮遊する人類最後の都市、
ノーヴァス・アイテルである。

以来、聖女は贖罪の祈りを代々引き継ぐことで巨大な都市を空に留めてきた。

平穏な時代が続き、かつての繁栄には及ばぬものの、都市は漸進的に発展する。

オーガスト最新作

あいよく

穢翼のユースティア

*Qui dixeris Pascuatus, Altissimi donum Dei, Fons vivas, ignis, caritas, Et spiritalis unctio.
Tu septiformis manare, Dulcis Paterna dextera, Tu rite promissum Patris,
Sermone ditavi quædam, Accende lumen sensibus, Infunde sanctorum credidus,
Infirma nostri corporis Virtute firmans perpeti.*

鋭意制作中



From AUGUST

昨年末の冬コミにて配布したオフィシャルハンドブックでの情報初公開以来従来のオーガストとは違った作風というところで、今までにない大きな反響を頂いております。スタッフ一同、一層開発に力が入りますとともに、ご注目頂いていることを大変嬉しく思っております。なるべく多くの方のご期待に応えられる作品を目指し、開発陣も鋭意努力して参ります。

現時点ではまだ紹介すらできていないキャラクターもたくさんいます。今後の展開にご注目下さい。



しかし、聖女の代を重ねること二十と八。

再び悲劇が起こる。

突如として、都市の一角が浮力を失ったのだ。崩落する岩盤とともに、数千とも言われる人々が大地の混沌へと吸いこまれていった。

大崩落。

大崩落

《大崩落》は都市の姿も一変させる。

この都市には、貴族が住む上層と一般民が住む下層という2つのエリアしかなかった。

だが、崩落に伴う地震で下層の一部が沈降し、絶壁により隔絶されたもう一段低いエリアが生まれたのだ。

そこが《牢獄》と呼ばれる区画である。

崩落後の牢獄は、控えめに見ても地獄だった。路地は遺体と負傷者で溢れ、物資の不足は更なる死者を生む。

何とか秩序を取り戻すまでの数年で、牢獄はまるで新しい社会となっていた。

牢獄の隅々にまで貧しさが充満し、わずかな金のために人命が失われる。

盗みや暴力はもはや話のネタにもならない。苦痛が苦痛を呼び、悲劇が悲劇を呼ぶ。

積もる絶望の淵は人々から光を奪い、多くの者は沈むに身を任す。

だが、誰が彼らを責められようか。

それこそが、牢獄の「生き方」なのだから。



背中に羽が生える病、劣化病に冒された幼女とある事情で主人公が引き取ることとなる。生母の親も育ての親もなく、物心ついた頃から下級の召使いとして使役されてきた。辛い人生を送ってきた割に、性格は明るく朗らかで、周囲を和ませてくれる。主人公に言わせれば、脳味噌に向日葵が群生しているような女。今までの人生経験により家事全般にそつがなく、主人公の世話を一方的に見ていたエリスには目の仇にされる。

ユースティア

Eustia Astraea

カイム

Calm Astraea

本編の主人公

《大崩落》ですべてを失い牢獄に流れ着いた男。受けた傷痕は未だに癒えず、その胸の奥で赤い雫を滲ませている。幼少の時期はリリウムの下僕として酷使されるも、不蝕金鎖の先代に運動能力を見込まれ、命をひさぐ仕事につく。以来、牢獄の泥の中で刃を振るい続け、たまたま生る為には他の命を奪としてきた。先代の死を機に暗い仕事からは手を引いたが、いまだ彼の周りから血の匂いが消えることはない。



取られることが多いようだ。

第29代聖女イレヌ。大崩落の責任を取って処刑された先代聖女に代わり、祈りの力でノヴァス・アイルを空に留めている。民衆の前に姿を現すことはごく稀で、聖堂の奥にある聖域で、人生を祈りに捧げているという。光を失っていることから『盲目の聖女』と呼ばれ、民衆からの人気は絶大である。人柄はごく一部の人間にしか知られていないが、純粋で論理的。シニカルな物言いをするので、きつい性格と

聖女イレヌ

Saint Irene

エリス

Eris Floralia



編端になりかけのころを主人公が世話(※)された。娯楽の度を超えて、その腕前は娯楽屋の高級く評面されて、か医者は副業で、娯楽は主人の妻と個人的に強く主張している。娯楽は主人の妻と家事能力はかなり足りていない。娯楽はプロで面倒さがりだが、主人公の冗談を真に受けることがあり、死ぬと熱を燃やす。主人公の冗談を真に受けることがあり、死ぬと言うと本当に死にかなないので、発言には注意が必要。

※身掛けし多額の金を払い、娯楽の経営者から娯楽を買取ると。



《牢獄》関所前広場

関所の前に広がる市場。飢えに苛まれる牢獄の住人は、この場所で僅かな食料を手に入れ、生き長らえることになる。牢獄全土の人間が集まる為、罵り合いや暴力、騙し合いや盗難、果ては殺人など、暗い行為が絶えることはない。



『面』だだ融通が、そのところがあり、周囲とどうか

『羽化病』が発症した人を半ば強制的に治療院へ送るために作られた組織『羽狩り』。その牢獄地域を担当する部隊の隊長を務めている。羽狩りの持つ社会的な意義を信じて仕事に打ち込む真面目な性格。娯楽街などには嫌悪感を持っており、それが元で主人公と衝突する。剣の腕にも覚えがあり、訓練などには力を惜しまない努力家でもある。一方フレイベットの面では娯楽などもやわわいものを好む女性らしい一面も、ただ融通が、そのところがあり、周囲とどうか

フィオネ

Fione Silvaria

リシア

Licia de novus Yuri



王家の第7王女で継承順位は一位。養父である現王に病に伏せているため、代理として政務を執行している。また冠の儀を行っていない彼女を『無冠の女王』と揶揄する貴族もいるようだが、本人はまったく気にしていない様子。性格は明朗で活気に溢れるが、育ちの良さが打たれ弱い一面も。王家の人間にしては世俗への関心が強いようで、召使いから炊事や裁縫などの仕事を奪っては迷惑がられている。



娼館“リウム”

口減らしのために捨てられた女、僅かな金と引き換えに売られた女、どこかで深い罪を犯した女……彼女たちが行き着く果てがここ娼館(リウム)である。夜ごと集まる男たちに、一夜の夢を見せ、現実を忘れさせる為に、上辺だけが豪奢に装飾されている。

クローディア
リサ
アイリス

Claudia
Risa
Iris

娼館(リウム)で働く娼婦たち。店へ働くことになった理由も時期もそれぞれだが、互いにいたわり合い、身を削りながら日々を生きている。



酒場“ヴィルダ”

《ヴィルダ》はメルトが切り盛りする酒場だ。娼館街の入口に位置しており、夜の帳が下りると人々が灯りに誘われる羽虫のように集まり、酒を啜る。日々の憂さを紛らわすため、夜遊びに向けて景気をつけるため——理由はさまざまだが、客たちにとってこの店が数少ない、安全の場であることは間違いない。

メルト

Melt Logtie

娼館街の入口にある酒場《ヴィルダ》を一人で切り盛りしている。かつては娼館街で最も大気あつた娼婦だったが、ジークの父親である不埒金銀の先代頭に身請けされ、酒場を任せられるようになった。半獣を全体的に引く不安や絶望に逆らうかのよう、いつも明るい笑顔を保つ。

ジーク

Stiefried Grad

半獣の暗部を支配する組織(不埒金銀)の当代頭であり、カイムの昔なじみでもある。性格は半獣の混沌を象徴するかのよう。定型を持たず、前に立つ者によつては、神にも魔物にも見えることだらう。娼館街の奥底にある、ながら半獣を俯瞰し、指の動き一つで人の人生を変える。



ルキウス

Lucius de Mitraille

改革派の旗手として名目を継ぐ、若き貴族。その立場を手に入れたのを知り、人は多岐にわたる貴族たちは、成功者である彼を称えへつらい、時に嫉妬する。《羽狩り》の指揮を取る立場だが、半獣の中でも彼を支持する者は少なくない。

システイナ

Sistina Uyi

ルキウスの片腕として、主の後ろにいつも付きまわっている。感情を表に出さず、常に沈着冷静。氷のやうに冷たい雰囲気。を纏っている。ルキウスは志願をへん、おろ、多くの時間を彼のそばで待たせている。

《大崩落》現場

十数年前に起きた大災害の爪痕が生々しい。——そのとき、多くの住民は踏みしめてきた大地ごと姿を消した。心許した隣人や友人、愛した恋人や家族を失った者も数え切れない。あるべきものが欠落したこの場所は、今なお喪失感を抱える人々の心を象徴しているようにも思える。

ベッガンこう(以下ベ):わー。対談だよー。

榊原拓(以下榊):今回はやつぱりFAアニメ化?

ベ:ですね!

榊:脚本は順調に進んでいるようで、こちらでも少しだけお手伝いしてます。

ベ:絵の方も、アニメの版權イラストが雑誌にてたりしてますよ。一応僕もチェックを入れさせて貰ってます。実際に動いているところを早く見てみたいですねー。

榊:動いているところを見たいのはどのキャラ?

ベ:かなでさんとか面白いかも。あと雪丸。

榊:ああ、そのあたりは確かに見たい!

ベ:放送が始まったら上映会でもしますか。

榊:それは是非。……でも、ゲームがアニメ化されたのを観るのって、個人的には猛烈に照れくさいんです。嬉しいのはものすごく嬉しいですし、自分で書いた台詞が読まれるのはゲームでも一緒にするのはなにかなんでしょう。

ベ:僕はあまり照れはないかな。

榊:なんかもう、ずっとニヤニヤしながら見てるんですよ。

ベ:にやにやはするぜ。

榊:するよねえ(笑)

ベ:アニメはまだ制作発表!という段階なので、いろいろお知らせできるのもこれからです。お楽しみに!

榊:——さて『夜明け前より瑠璃色なポータブル』が予定通り2/25に発売されました。

ベ:おかげさまでご好評を頂いているようで、何よりです。

榊:PSPで初『夜明け前より瑠璃色な』という方もいらつやるみたいですよ。もちろんシリーズは全部お買い上げ頂いている方もいらつやいますが。

ベ:どちらもとてもありがとうございます。携帯ゲーム機はどこでもプレイできるのが強みですからね。

榊:ポータブルはプレイしてみました?

ベ:ええ。もともと4:3画面のをワイドにしていたりするのでシステムまわりが気になってましたが、思ったより全然良かったですね。快適にプレイできました。

榊:——新作の『穢翼のユースティア』の開発は?

ベ:順調ですよ。そちらは?

榊:なかなか難しいです。新しいチャレンジも多いので。

ベ:ファンタジーだと現代モノだと語らなくていいところまで語らないといけないですからねー。

榊:世界観説明はそうですね。くどくならないように。

ベ:あえて語らず、も必奪がもしませんか。察してくださいいな。

榊:リアルにすればいいってものでもないんですよ。中世ヨーロッパとか調べれば調べるほど不潔すぎます。

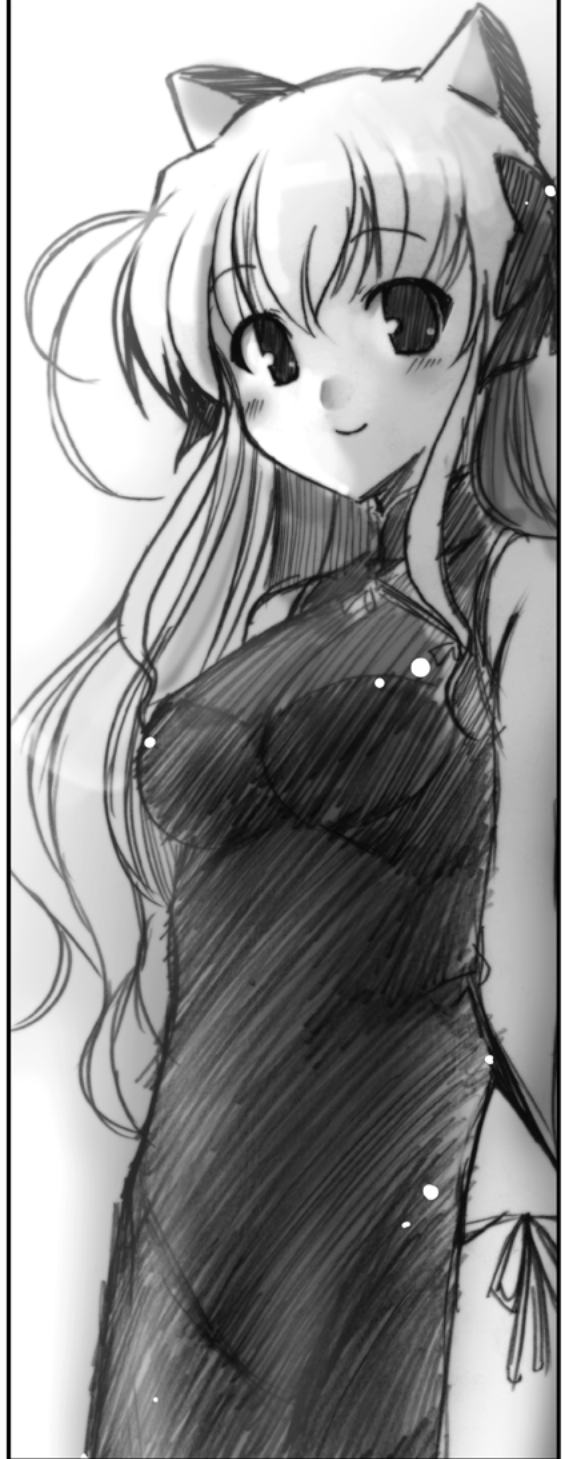
ベ:ビジュアル面でも、衣装なんかをリアルにやるとつまらなかつたりしますよ。

榊:リアルに見える嘘ってのもありますよね。逆に嘘に見えるリアルもあつたりしますし。

ベ:まあバランスということと。

榊:ええ。そんなわけで鋭意開発中です。お楽しみに!!

スナップ対談 第26回 ベッガンこう & 榊原拓



2010.4.13 22:35 社内にて

POSTSCRIPT - あとがき

オフィシャルハンドブックをお読み頂き、ありがとうございました。
お楽しみ頂けましたでしょうか。

さて既にご存知の方もいらっしゃると思いますが、『FORTUNE ARTERIAL』がアニメ化されることとなりました。
脚本や全体構成などで一部お手伝いもさせて頂いておりますが、FAのキャラが動くのを、スタッフ一同楽しみにしています。
徐々にアニメ公式からのリリースも増えると思いますので、詳細につきましてはもう少しお待ち下さい。
また、コンプティーク誌で連載が続いている児玉樹さんのコミックスもスタッフ的にお勧めです。もしまだお持ちでなかったら、FAの舞台の復習にいかがでしょうか。

一方開発室では、新作『穢翼のユースティア』の制作に取り組んでいます。
今回の小冊子でも情報をお知らせすることができましたが、全体像は広く、開発室内でも詳細を詰めている真っ最中です。
最初から完璧なイメージがあるわけではなく、実際に少し作って形にしてみることで「やっぱりそこはもう少しバランスを考えて」「逆にここは深く掘り込もう」という点が見えることもあります。
試行錯誤を繰り返しながら前進しておりますので、今後リリースされる情報にご注目頂ければ幸いです。

それでは、今回はこの辺で。
今後ともオーガスト/ARIAをよろしくお願い致します。

2010年春 オーガスト/ARIAスタッフ一同

オーガストオフィシャルハンドブック

2010年春号

※禁無断転載・無断複製

最新情報満載!

オフィシャルホームページにぜひお越し下さい!

<http://august-soft.com/>

<http://aria-soft.com/>



FORTUNE ARTERIAL
—フォーチュン アテリアル—





あいよく

職翼のユーステア

*Qui dicere Magister. Altissimi Genes Dei. Peru vivus, tenis, caritas. Et spiritalis sanctus.
Tu septiformi manere. Duxes Materne dexteræ. Tu rite pronovissus Patris.
Sermonis dictas confessor. Attendit homines semitibus. In funde amorem cordibus.
In forma natus corporis Virtute firmans perpetui.*

オーガストオフィシャルハンドブック
2010年春号

